

47 ル・コルビュジエと日本（2021年4月13日）

ル・コルビュジエ（1887-1965）は、日本の近代建築に大きな影響を与えた建築家で、日本でも有名です。パリの国際大学都市には、ル・コルビュジエが設計したスイス館とブラジル館があります。2016年にユネスコの世界遺産に登録された「ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—」によって、日本でもル・コルビュジエの名前が広く知られるようになりました。



この世界遺産は3大陸の7か国にまたがる17の作品から構成されており、パリ16区のラ・ロッシュ-ジャンヌレ邸も含まれていますが、日本の国立西洋美術館も構成資産の一つになっています。この美術館は、日本でル・コルビュジエが設計に関与した唯一の建物です。なぜ、ル・コルビュジエが日本の美術館を設計することになったのでしょうか。

東京の上野にある国立西洋美術館は、川崎造船所（現在の川崎重工業（株））の初代社長であった松方幸次郎（1866-1950）が、1916年から約10年間にヨーロッパ各地で蒐集した美術品（松方コレクション）の收藏と展示をする施設として、1959年に完成しました。第二次世界大戦の末期、フランス政府によって差し押さえられていた松方



Photo: Musée National des Beaux-Arts de l'Occident, Japon

写真：国立西洋美術館（※1）

コレクションは、戦後、両国の間で交渉が行われ、フランスから日本へ寄贈返還されることになりました。寄贈返還における条件の一つとなっていた新しい美術館の建設のために、日本政府は、ル・コルビュジエに美術館の設計を依頼しました。

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

美術館の施工を担当した日本の建設会社（※2）によると、ル・コルビュジエは1955年に来日して建設予定地を下見しました。翌年日本に送られた基本設計書には依頼していない施設の計画も描かれ、1957年に届いた実施設計図には一枚を除いて寸法が記載されていませんでした。代わりに、「日本の弟子たちを信頼し、彼らが寸法を書き入れることができる」と信じている」というル・コルビュジエの言葉が書かれていました。ル・コルビュジエの意志を実施設計図にしたのは、彼の下で学んだ前川國男（1905-1986）、坂倉準三（1901-1969）、吉阪隆正（1917-1980）という三人の弟子たちでした。彼らは日本国内に数多くの作品を残し、その後の日本の建築界を発展させた多くの著名な建築家を育てました。

フランス政府から日本政府に対して、国立西洋美術館をユネスコの世界遺産として共同推薦することを要請されたのは、2007年のことでした。世界遺産に登録されるまで、9年もの時間がかかりました。代表推薦国であるフランスとともに、日本を含む関係国が協力して世界遺産登録が実現しました。

ル・コルビュジエは、日本人を弟子として建築家に育てたことで日本の近代建築の発展に直接的に貢献しました。さらに、日仏両国は、ル・コルビュジエの作品の世界遺産登録を実現するという一つの目標に向かって協力することとなり、ル・コルビュジエの作品を通して21世紀の両国の文化協力も強化されました。

※1 国立西洋美術館

2020年10月19日（月）から2022年春（予定）まで、館内施設整備のため全館休館
<https://www.nmwa.go.jp/>

※2 出典：清水建設ウェブサイト「ル・コルビュジエの意思、シミズの技術」

https://www.shimz.co.jp/seiyou_museum/（日本語のみ）